

様式 2

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	11・学図	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 132、道徳 133 道徳 232、道徳 233 道徳 332、道徳 333 道徳 432、道徳 433 道徳 532、道徳 533 道徳 632、道徳 633	かがやけみらい しょうがっこう どうとく 1ねん よみもの、かつどう かがやけみらい 小学校 どうとく 2年 よみもの、かつどう かがやけみらい 小学校 どうとく 3年 読みの、活動 かがやけみらい 小学校 どうとく 4年 読みの、活動 かがやけみらい 小学校 道徳 5年 読みの、活動 かがやけみらい 小学校 道徳 6年 読みの、活動
取扱内容 〔学習指導要領の総則及び目標、内容等〕	<p>○ 生命の尊厳について 第1,2学年では、動植物を育てるときどのようなことを感じるか、新しい命が生まれることについてどのように感じるかを考える活動等、第3,4学年では、命あるものを大切にするとどのようなことをするのか、命を大切だと思ったことはどのようなことかを考える活動等、第5,6学年では、命が大切であると思う理由は何か、命がかけがえのないものだと感じるのはどのようなときかを話し合う活動等を取り上げ、児童が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 自然について 第1,2学年では、身近な生き物にどのような言葉をかけてあげたいか、どのような気持ちで生き物と接していこうと思うかを考える活動等、第3,4学年では、自然の不思議やすばらしさを感じたのはどのようなときか、身近な自然を大切にしていくためにどのような考えで暮らしていくとよいかを考える活動等、第5,6学年では、自然環境を守るためにできることは何か、地球に生きる一人として自分ができることは何かを話し合う活動等を取り上げ、児童が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 伝統と文化について 第1,2学年では、自分の回りにある昔から伝わっていることやものは何か、町のよいところやおもしろいところは何かを考える活動等、第3,4学年では、日本に伝わる伝統文化にはどのようなものがあるか、生まれ育った土地で自慢できるものは何かを考える活動等、第5,6学年では、伝統や文化を陰で支える人はどのような思いで受け継いでいるのか、先人はどのような思いで伝統や文化を発展させてきたのかを話し合う活動等を取り上げ、児童が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 情報化への対応について 第1,2学年では、いたずら書きを見た人はどのように思うか、伝えたり聞いたりするときに相手のために気を付けた方がよいことは何かを考える活動等、第3,4学年では、電話で守らなければならないルールやきまりは何か、インターネットで気を付けなければならないことは何かを考える活動等、第5,6学年では、SNSで文字だけのやりとりで気を付けなければならないことは何か、オンラインゲームで安全に楽しく利用するにはどうしたらよいかを話し合う活動等を取り上げ、児童が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p>			
	<p>○ 内容の構成・排列 言語活動については、道徳的価値に迫る発問「かんがえよう」や自らを見つめ振り返る発問「みつめよう」を配置し、問題解決的な学習については、道徳的価値に迫る効果的な活動を示す発問「はなしあおう」、「かいてみよう」を配置し、体験的な学習については、役割演技を通して道徳的価値の理解を深める「やってみよう」を配置するなど、児童が多面的・多角的に思考できるよう工夫されている。</p> <p>○ 内容の分量※ 第1学年～Aは13教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは7教材、Eは2教材、全体で41教材であり、総ページ数は168ページとなっている。 第2学年～Aは13教材、Bは10教材、Cは10教材、Dは7教材、Eは2教材、全体で42教材であり、総ページ数は176ページとなっている。 第3学年～Aは11教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは7教材、Eは4教材、全体で42教材であり、総ページ数は188ページとなっている。 第4学年～Aは11教材、Bは10教材、Cは11教材、Dは7教材、Eは3教材、全体で42教材であり、総ページ数は204ページとなっている。 第5学年～Aは9教材、Bは7教材、Cは12教材、Dは9教材、Eは5教材、全体で42教材であり、総ページ数は204ページとなっている。 第6学年～Aは9教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは9教材、Eは3教材、全体で42教材であり、総ページ数は204ページとなっている。</p>			
使用上の配慮等	<p>○ 各学年に、学習したことや考えたことを振り返る「道徳の学習を振り返ろう」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、児童が自らを振り返るための工夫がなされている。</p> <p>○ 各学年に、別冊において学習内容を解説し、家庭教育との連携を図ることを目的とした「保護者の方へ」を配置するなど、家庭や地域との連携を深めるための工夫がなされている。</p> <p>○ 道徳の学習の進め方を示すページを設けたり、全ての児童が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどを採用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			
その他	<p>○ 北海道と関連のある教材は、「国をこえた人命救助（札幌市）」など2箇所取り上げられている。</p> <p>○ いじめの問題については、差別や偏見のない社会にしていくなめには、どのような心と態度が必要かを話し合う活動等を取り上げている。</p>			

※ 「内容の構成・排列、分量等」の「内容の分量」のAは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。